

科目名	保育課程論	担当教員	崎枝 朝子
科目コード	330001	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

<p>1 保育における計画の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画はなぜ必要か</li> <li>・子どもの主体性を尊重した保育</li> <li>・計画のための要点</li> <li>・全体的計画作成の基本</li> <li>・計画作成のポイント</li> <li>・保育における評価の評価</li> <li>・PDCA サイクルを意識した保育の評価計画の再編成</li> <li>・保育者の専門性として求められる「省察」する力</li> </ul> <p>2 日本におけるカリキュラムの基礎理論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷</li> <li>・幼保連携型こども園教育・保育要領について</li> <li>・カリキュラムについて及びその類型について</li> <li>・幼稚園の創設者 カリキュラムの歴史 (明治期・昭和初期・倉橋以降から現代)</li> </ul> <p>3 子ども理解に基づく保育の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから求められる教育の方向性</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの実現に向けて</li> <li>・より機能的なカリキュラム・マネジメントをめざして</li> <li>・カリキュラムマネジメントのアクティブラーニング</li> <li>・カリキュラムマネジメントと評価・指導計画</li> <li>・教育課程及び全体的な計画と指導計画及び考え方</li> </ul> <p>4 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型こども園教育・保育要領」の性格</li> <li>・幼児教育としての共通性</li> <li>・幼児教育において育みたい資質・能力</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領の改訂内容</li> <li>・保育内容をより深く理解するための演習</li> <li>・保育の質の向上のための取り組み</li> </ul> <p>5 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園における幼児教育</li> <li>・幼稚園教育要領における教育課程と全体的な計画</li> <li>・教育課程編成の基本・手順及び全体的な計画の作成</li> <li>・カリキュラムマネジメントの必要性和「課題」のとりえ方</li> <li>・カリキュラムマネジメントを行う組織あり方</li> </ul> <p>6 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画とは</li> <li>・全体的な計画とその他の計画との関係性</li> <li>・全体的な計画の作成の基本・評価と改善・作成手順</li> <li>・児童福祉施設における計画と意義</li> <li>・自立支援計画の策定課程とその展開</li> </ul> <p>7 幼稚園の指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の必要性・関係性・作成上の留意事項・作成のポイント</li> <li>・長期の指導計画・年間指導計画・月の指導計画 (月案)</li> <li>・短期の指導計画</li> </ul> <p>8 保育所・認定こども園の指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の必要性・作成上の留意事項</li> <li>・長期の指導計画・短期の指導計画</li> </ul>	<p>9 保育の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における評価とは</li> <li>・保育者による評価と方向づけ</li> <li>・子どもの育ちを肯定的にみる</li> <li>・記録の意義・目的・原則・留意点・心得・記入例</li> <li>・子どもの内面理解</li> <li>・子どもと保護者への視点</li> <li>・教育・実践・反省 (評価)・改善と記録</li> <li>・記録の教育的機能</li> <li>・反省 (評価) と記録の視点</li> </ul> <p>10 指導計画の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画とその必要性</li> <li>・幼児教育の新たな視点</li> <li>・長期の指導計画・年間指導計画の例</li> <li>・短期の指導計画・日案の書き方</li> <li>・子ども理解をもとにした指導計画 (個別の支援計画へ)</li> </ul> <p>11 0歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の発達と配慮</li> <li>・乳児の生活と計画</li> <li>・保育所保育指針における3つの視点と5領域</li> <li>・指導計画作成の留意点</li> <li>・年間指導計画の実際</li> <li>・月の指導計画 (月案) 週の指導計画 (週案) の実際</li> </ul> <p>12 1歳以上3歳未満児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳以上3歳未満児の理解と保育内容</li> <li>・保育所保育指針における「1歳以上3歳未満児の保育」</li> <li>・1歳以上3歳未満児の指導計画</li> <li>・個人差を考慮した指導計画・家庭との連続した生活を考慮した指導計画</li> <li>・指導計画作成のポイント・記録と評価・指導計画作成</li> </ul> <p>13 3歳児・4歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画作成の基本 ①子ども理解に始める保育のデザイン</li> <li>・指導計画の作成の基本②3歳以上児の保育に関するねらい、及び内容のとりえ方</li> <li>・指導計画の作成の基本③</li> <li>・指導計画の実際と展開の理解</li> <li>・指導計画の実際と展開の理解 (異年齢保育)</li> <li>・園行事の指導計画</li> </ul> <p>14 5歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児の発達の特徴と保育者の配慮</li> <li>・5歳児の発達に関する「保育内容」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」</li> <li>・長期の指導計画を作成するうえで必要な子どもの姿の理解</li> <li>・短期の指導計画作成の留意点</li> <li>・実習生が作成する指導計画の (指導案) の考え方</li> <li>・年齢 (発達) に応じた保育者の意図</li> <li>・「ねらい」に込められた保育者の願い</li> <li>・評価の観点</li> </ul> <p>15 小学校との接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の教育から小学校教育への接続を考える</li> <li>・乳幼児から大学までの体系的な教育の実践</li> <li>・子どもの育ちを小学校へつなぐ資料を作成するために</li> <li>・保育者にとって要録を作成する意味</li> <li>・乳幼児期の教育との接続</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領の改訂の目指すところ</li> </ul>
---	--

授業修了時の達成目標

- 子どもの「主体性」が尊重されるための「計画性のある保育」の必要性を学び、保育の全体的な計画の作成の基本を押さえ専門職として求められる「省察」する力の必要性を学ぶ。
  - 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等の変遷について理解しカリキュラムの在り方を理解する。
  - 「アクティブラーニング」の視点から「PDCA サイクル」で保育を探り、教育・保育の質向上について学ぶ。
  - 保育所・幼稚園・認定こども園等における指導計画の作成において、その必要性和留意事項について事例や実践を交えながら学ぶ。
  - 0歳児・1歳以上3歳未満児・3歳児以上児の指導計画を作成するにあたり、発達の理解に加え子どもの育つ環境を専門的な立場から見据える多角的視点を学ぶ。
  - 「子どもの育ちの保障」のために、小学校との接続の重要性を知り、その方法・実態について理解を深める。
- ※自身の持っている「保育理念」「めざす子ども像」を達成し実現するために必要な、専門的保育知識を備え深めていく。

科書・教材	評価基準	評価率
○『教育・保育カリキュラム論』＜中央法規＞ 監修；公益財団法人 児童育成協会編集；千葉武夫・那須信樹	試験	100.0%
○『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』 ○『幼保連携型こども園教育保育要領』	レポート	100.0%

科目名	保育課程論	担当教員	崎枝 朝子
科目コード	330001	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

<p>1 保育における計画の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画はなぜ必要か</li> <li>・子どもの主体性を尊重した保育</li> <li>・計画のための要点</li> <li>・全体的計画作成の基本</li> <li>・計画作成のポイント</li> <li>・保育における評価の評価</li> <li>・PDCAサイクルを意識した保育の評価計画の再編成</li> <li>・保育者の専門性として求められる「省察」する力</li> </ul> <p>2 日本におけるカリキュラムの基礎理論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷</li> <li>・幼保連携型こども園教育・保育要領について</li> <li>・カリキュラムについて及びその類型について</li> <li>・幼稚園の創設者 カリキュラムの歴史 (明治期・昭和初期・倉橋以降から現代)</li> </ul> <p>3 子ども理解に基づく保育の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから求められる教育の方向性</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの実現に向けて</li> <li>・より機能的なカリキュラム・マネジメントをめざして</li> <li>・カリキュラムマネジメントのアクティブラーニング</li> <li>・カリキュラムマネジメントと評価・指導計画</li> <li>・教育課程及び全体的な計画と指導計画及び考え方</li> </ul> <p>4 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型こども園教育・保育要領」の性格</li> <li>・幼児教育としての共通性</li> <li>・幼児教育において育みたい資質・能力</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領の改訂内容</li> <li>・保育内容をより深く理解するための演習</li> <li>・保育の質の向上のための取り組み</li> </ul> <p>5 幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園における幼児教育</li> <li>・幼稚園教育要領における教育課程と全体的な計画</li> <li>・教育課程編成の基本・手順及び全体的な計画の作成</li> <li>・カリキュラムマネジメントの必要性と「課題」のとらえ方</li> <li>・カリキュラムマネジメントを行う組織あり方</li> </ul> <p>6 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画とは</li> <li>・全体的な計画とその他の計画との関係性</li> <li>・全体的な計画の作成の基本・評価と改善・作成手順</li> <li>・児童福祉施設における計画と意義</li> <li>・自立支援計画の策定課程とその展開</li> </ul> <p>7 幼稚園の指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の必要性・関係性・作成上の留意事項・作成のポイント</li> <li>・長期の指導計画・年間指導計画・月の指導計画 (月案)</li> <li>・短期の指導計画</li> </ul> <p>8 保育所・認定こども園の指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の必要性・作成上の留意事項</li> <li>・長期の指導計画・短期の指導計画</li> </ul>	<p>9 保育の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における評価とは</li> <li>・保育者による評価と方向づけ</li> <li>・子どもの育ちを肯定的にみる</li> <li>・記録の意義・目的・原則・留意点・心得・記入例</li> <li>・子どもの内面理解</li> <li>・子どもと保護者への視点</li> <li>・教育・実践・反省 (評価)・改善と記録</li> <li>・記録の教育的機能</li> <li>・反省 (評価) と記録の視点</li> </ul> <p>10 指導計画の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画とその必要性</li> <li>・幼児教育の新たな視点</li> <li>・長期の指導計画・年間指導計画の例</li> <li>・短期の指導計画・日案の書き方</li> <li>・子ども理解をもとにした指導計画 (個別の支援計画へ)</li> </ul> <p>11 0歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の発達と配慮</li> <li>・乳児の生活と計画</li> <li>・保育所保育指針における3つの視点と5領域</li> <li>・指導計画作成の留意点</li> <li>・年間指導計画の実際</li> <li>・月の指導計画 (月案) 週の指導計画 (週案) の実際</li> </ul> <p>12 1歳以上3歳未満児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳以上3歳未満児の理解と保育内容</li> <li>・保育所保育指針における「1歳以上3歳未満児の保育」</li> <li>・1歳以上3歳未満児の指導計画</li> <li>・個人差を考慮した指導計画・家庭との連続した生活を考慮した指導計画</li> <li>・指導計画作成のポイント・記録と評価・指導計画作成</li> </ul> <p>13 3歳児・4歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画作成の基本 ①子ども理解に始める保育のデザイン</li> <li>・指導計画の作成の基本②3歳以上児の保育に関するねらい、及び内容のとらえ方</li> <li>・指導計画の作成の基本③</li> <li>・指導計画の実際と展開の理解</li> <li>・指導計画の実際と展開の理解 (異年齢保育)</li> <li>・園行事の指導計画</li> </ul> <p>14 5歳児の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児の発達の特徴と保育者の配慮</li> <li>・5歳児の発達に関する「保育内容」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」</li> <li>・長期の指導計画を作成するうえで必要な子どもの姿の理解</li> <li>・短期の指導計画作成の留意点</li> <li>・実習生が作成する指導計画の (指導案) の考え方</li> <li>・年齢 (発達) に応じた保育者の意図</li> <li>・「ねらい」に込められた保育者の願い</li> <li>・評価の観点</li> </ul> <p>15 小学校との接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の教育から小学校教育への接続を考える</li> <li>・乳幼児から大学までの体系的な教育の実践</li> <li>・子どもの育ちを小学校へつなぐ資料を作成するために</li> <li>・保育者にとって要録を作成する意味</li> <li>・乳幼児期の教育との接続</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領の改訂の目指すところ</li> </ul>
--	--

授業修了時の達成目標

- 子どもの「主体性」が尊重されるための「計画性のある保育」の必要性を学び、保育の全体的な計画の作成の基本を押さえ専門職として求められる「省察」する力の必要性を学ぶ。
  - 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等の変遷について理解しカリキュラムの在り方を理解する。
  - 「アクティブラーニング」の視点から「PDCAサイクル」で保育を探り、教育・保育の質向上について学ぶ。
  - 保育所・幼稚園・認定こども園等における指導計画の作成において、その必要性和留意事項について事例や実践を交えながら学ぶ。
  - 0歳児・1歳以上3歳未満児・3歳児以上児の指導計画を作成するにあたり、発達の理解に加え子どもの育つ環境を専門的な立場から見据える多角的視点を学ぶ。
  - 「子どもの育ちの保障」のために、小学校との接続の重要性を知り、その方法・実態について理解を深める。
- ※自身の持っている「保育理念」「めざす子ども像」を達成し実現するために必要な、専門的保育知識を備え深めていく。

科書・教材	評価基準	評価率
○『教育・保育カリキュラム論』＜中央法規＞ 監修；公益財団法人 児童育成協会編集；千葉武夫・那須信樹	試験	100.0%
○『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』 ○『幼保連携型こども園教育保育要領』	レポート	100.0%

※平成 30 年度入学生対象科目

科目名	社会的養護内容	担当教員	砂川 恵正
科目コード	(スクーリング)330002	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (スクーリング)

<p>1) 子どもの権利擁護の基本と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護における子どもの権利擁護の実際についての理解</li> <li>・社会的養護における権利擁護の多様なシステムの理解</li> </ul> <p>2) 施設養護の特性と実際 (DVD活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、児童養護施設における子どもの支援と支援者の専門性を理解</li> <li>・事例検討を通して、多様な支援の在り方を学習する</li> </ul> <p>3) 家庭養護の生活特性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里親家庭で生活する子どもの実際</li> <li>・ファミリーホームでの子どもの生活と支援の実際</li> <li>・施設養護との違いを理解する(メリット・デメリット等)</li> </ul> <p>4) アセスメントと自立支援計画の意義と作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援計画の意義を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通して、アセスメントし、自立支援計画を策定する</li> </ul> <p>5) 日常生活支援に関する事例分析と支援を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して、アセスメント、支援の課題をグループで検討</li> </ul> <p>6) 心理的支援の実際と他職員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して心理支援の実際と他職員との連携を学習する</li> </ul> <p>7) 自立支援に関する事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の子ども達の退所後の進路の状況とリービングケアを考える</li> <li>・自立の意味を考える</li> </ul> <p>8) 社会的養護におけるソーシャルワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して、家族再構築と地域支援を考える</li> </ul> <p>9) 記録及び自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録がなぜ必要か、記録の意味を考える</li> </ul>
---	---

授業終了時の達成目標

社会的養護（家庭養育を含め）に関わる保育士としての豊かな専門性高め、実際場面でも、子どもや家族に対して専門性を発揮した支援ができるよう下記のことを獲得する。

- 1) 社会的養護の実際を理解する
- 2) 子どもと家族への多様な支援を理解する
- 2) 被虐待児、障害児等へのあらゆる支援のあり方を理解する
- 4) 社会的養護における現状と課題を解する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

※平成 30 年度入学生対象科目

科目名	保育相談支援	担当教員	真栄城 かの子
科目コード	(スクーリング)330003	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間
授業概要 (スクーリング)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育者の専門性を生かした保育相談支援について学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育相談支援とは何かを理解した上で、保育相談支援の実際について理解する。授業では保育相談支援の意義や基本について学び、保護者支援について学び、保護者支援の方法や保護者との信頼関係の重要性について学ぶ。子どもの幸せを念頭に置き、保育現場や児童福祉施設、専門機関との連携等、保育相談支援の実際について現場の声を聞きながら保育士として必要な視点を身につける。</p>			
授業テーマ	授業内容	授業方法	
○保育相談支援の意義・機能	・ 保育相談支援とは何か	講義	
○保育相談支援の基本 (原理原則)	・ 保護者に対する保育相談支援の意義 ・ 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 ・ 子どもの最善の利益とは ・ 子どもの成長・発達の喜びの共有や信頼関係を基本とした対人援助の原則を学ぶ ・ 保護者の養育力の向上に資する支援	講義  演習	
○保育相談支援の実際①	* 演習課題をもとにグループでディスカッションして発表する 課題：受けとめられたと感じた場面 ・ 事例を通して保育相談支援の方法や技術を学ぶ	演習	
○保育相談支援の実際②	★DVD 視聴「保育所の地域子育て支援」 ・ 保育に関する保護者に対する指導	講義	
○保育相談支援の方法と技術	・ 保護者支援の内容 ・ 保護者支援の方法と技術		
○保育相談支援の展開過程	・ 「保育技術」「保育相談支援技術」とはなにか ・ 支援計画→実施→終結までの過程の説明聞き、理解する		
○児童福祉施設における 保育相談支援	・ 保育所における保育相談支援 ・ 保育所における特別な対応を要する家族への支援 ・ その他の児童福祉施設における保育相談支援		
○コミュニケーションスキル を高めるために	・ 保育におけるコミュニケーションの場面について (保護者や子どもとの)		

<p>○カウンセリングについて</p> <p>○全国保育士会倫理綱領とは</p> <p>○DVD 視聴</p> <p>○ロールプレイング</p> <p>○試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習課題をもとにグループでディスカッションして発表する</li> <li>・カウンセリングの基礎知識を学ぶ</li> </ul> <p>☆課題：保育士の保護者に与える表情・ふるまい・服装について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理綱領について解説を聞いて理解する</li> </ul> <p>★DVD を視聴「プロフェッショナル・保育士」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーカーとの相談者、勝ち得を観察する学生に分かれて行う</li> </ul>	<p>演習</p>
---	---	-----------

授業修了時の達成目標

- ・保育相談支援の意義と原則について理解する
- ・保護者支援の基本を理解する
- ・保育相談支援の内容方法を理解する
- ・保護者支援の実際について、事例から学び、理解を深める

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<p>※テキスト購入なし</p> <p>西村重稀/青井夕貴編集「保育相談支援」</p> <p>保育基本シリーズ 19 中央法規 2017</p> <p>全国保育士会倫理綱領ガイドブック</p>	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	保育実践演習	担当教員	金城 桂子
科目コード	(レポート・科目試験) 330004 (スクーリング) 330005	授業形態	レポート・科目試験・スクーリング
単位数	2 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (スクーリング)

- |  |  |
|--|--|
| <p>1.これまでの学修を踏まえ、保育所(園)と保育の理解を深める。</p> <p>①保育所(園)の役割と機能。</p> <p>②保育者と子ども、保護者とのかかわり理論と演習。(ロールプレイ)</p> <p>③5領域の視点から自己の理想とする保育者を思い描く。(レポート)</p> <p>2.実習時の自己紹介の方法</p> <p>①ペープサートや、カード、人形等、内容は自由とする。(製作)</p> <p>②一人ひとり前に出て発表する。</p> | <p>3.園外保育の計画とシミュレーション</p> <p>①園外保育計画を立てる。(持ち物や注意、配慮など指導案を作成する。)</p> <p>②園外保育のシミュレーション(実際に公園散歩にでかける。)</p> <p>4.保育所(園)、ボランティア、実習に行くための心構えと準備。</p> <p>①行くまでに準備すること。</p> <p>②目標、目的の明確化。</p> <p>5.まとめ</p> |
|--|--|

授業概要 (テキストによる通信教育)

- 1.これまでの学修をふりかえろう!!
- 2.保育者になる前にもう一度、確認チェック!!
- 3.保育・教職実践演習にのぞむ
- 4.保育者としての仕事および使命と責任とは?
- 5.仕事を成功にみちびく対人関係能力とは?
- 6 幼稚園・保育所・幼保連携認定こども園に出向き、現場をのぞいてみよう!
- 7.ぜひ身につけたい保育実践力① ー環境と遊び編ー
- 8.ぜひ身につけたい保育実践力② ー保護者への対応・障害児保育・英語編ー
- 9.レポート・科目試験

授業終了時の達成目標

保育の目的、内容、方法を理解し、保育者を目指す者として、必要な知識・技術を習得し、実習に向けての意欲を高める。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習テキストノート (ふくろう出版)	(レポート・科目試験)		
	試験	100%	
	レポート	100%	
	(スクーリング)		
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員	大庭 荒
科目コード	330006	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	選択

#### 授業概要 (スクーリング)

##### 【科目のねらい】

2000 年、社会福祉事業法が社会福祉法として法律名称が変更され、第 1 条の法の目的においては、「地域における社会福祉（地域福祉）の推進を図る」と明確化された。個人の尊厳、地域自立支援、支え合う地域づくりの総体となる地域福祉の意義を理解する。

##### 1. 地域福祉システムのキーワード

共生社会、参加型地域福祉、協働型地域福祉、バリアフリー

##### 2. コミュニティと地域福祉

地域社会の生活課題、生活圏域と福祉圏域、まちづくり

##### 3. 地域福祉の主体形成と住民参加

福祉教育、地域協働、住民参加の形態

##### 4. 地域福祉のあゆみ

戦前～戦後の社会事業、地域福祉の理論、地域福祉の対象

##### 5. 地域福祉をとりまく資源、財源

社会資源、財源、地域福祉サービスの経営、地域福祉へのサポート

##### 6. 地域福祉を推進する専門職と組織

ニーズの捉え方、コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポートネットワーク、社会福祉協議会  
民生委員・児童委員、NPO・ボランティア、当事者組織

##### 7. 地域福祉計画の方法と展開

地域福祉計画の本質、住民参加、自治体計画、計画の評価

##### 8. 諸外国の地域福祉

##### 9. 地域福祉の展望

地域福祉の 3 つのつながり、5 つの C、地域包括ケアシステム

#### 授業修了時の達成目標

- 地域の問題・課題を把握し視野の広い考察力を習得する。
- 地域福祉の対象となる地域住民が抱える生活課題と向き合う意識を高める。
- 地域福祉理念の実現と社会保障制度を関連づけて説明できる。
- 地域福祉を推進する組織について説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
地域福祉の理論と方法 第 2 版 (ミネルヴァ書房)	試験	100%	
	レポート	100%	

科目名	心理学理論と心理学支援	担当教員	山入端 津由
科目コード	330007	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

#### 授業概要 (テキストによる通信教育)

ヒューマンサービスに従事する人にとって、支援される人の思いや気持ち、行動を理解することが最も大切である。支援される人が快く支援を受け入れているか、あるいは支援を嫌っているかを知ることなしの支援は、一方的、押し付け的な支援になってしまう。では、私たちはどのようにして支援される人の心を知り得るのか。

心理学は人の心の仕組みと、その人が置かれている場（状況）の仕組みの双方の直交軸を中心にして人を理解する学問である。人の行動がどのように形成されていくのか。個人に対するある作用（刺激という）に人がどのように対応（反応という）し、行動が形成されていく過程及びその人が経験を語ることを通して世界がその人にとってどのように見えているのかを理解する。果たして、人の心を知る、理解するとはどういうことか。どういうふうになれば人の心が理解できるのか。人の心というのは、そもそもどういうものだとみなされているのか。こういうことをこれから考え、理解を深める。

テキストの各章立てに沿って学ぶが、理解をより深めるために参考になる資料も紹介する。心理学を学ぶ上で大切なことは、専門用語をいかに理解するかということに尽きる。専門用語をできるだけ具体的な日常生活上の例をとおして説明するように心がけたいと思う。これらをレポートの添削などを通して指導する。レポートを作成するためには、考えること(思考)、読むこと（参考書など関連する文献＝図書）、自分の考えを文章にする努力を積み重ねることに時間を使う必要がある。また、わからない漢字は必ず辞書を引くことが大切である。スマホを有効に使おう。

#### 授業終了時の達成目標

心理学ってそういう学問なんだと、「わかった」体験が持てることが大切である。具体的には、専門用語（テクニカル・ターム）がよく理解できたと思えばよい。そうすると、自己の日常体験を心理学的に理解することができる。ぜひそうあってほしい。さらに、相手の心を読むこと、すなわち相手の立場に立ってその人が何をどのように考えているかを理解することができることよい。みなさんのこれからの仕事と密接に関連する重要な課題がたくさんあるが、とりわけ子どもの発達について、愛着モデルを通して理解を深めてほしい。

また、社会問題となっている児童虐待について、理解と対策を深めてほしい。つまり、実際に仕事に役立つ心理学を学ぶことができることを目標にしたい。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
心理学理論と心理学支援（第2版） （ミネルヴァ書房）	試験	100%	
	レポート	100%	



科目名	福祉ボランティア実践	担当教員	大庭 荒
科目コード	330008	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

【科目のねらい】

社会参加のひとつでもあるボランティア活動の概要を理解し、自ら実践することにより、地域ぐるみのボランティア活動・実践の意義を理解する。

1. ボランティア活動とは何か
  - (1) ボランティアリズム
  - (2) ボランティア活動の基本的性格・定義と歴史
  - (3) NPO 法人、ボランティア団体の概要と活動
2. ボランティア活動の推進
  - (1) ボランティア活動を推進する組織
  - (2) ボランティア活動の振興策とコーディネーター
3. ボランティア活動の実践準備
  - (1) ボランティア活動を始める上での計画
  - (2) ボランティア活動の方法
  - (3) 児童、地域、高齢、障害など各福祉分野におけるボランティア活動事例
4. ボランティア活動の実践
  - (1) 活動記録・評価の意義
  - (2) 実践者同士のスーパービジョン
  - (3) ボランティア活動の振り返りと共有

授業終了時の達成目標

1. ボランティア活動の根底にあるボランティアリズムを理解し、活動の基本的性格・意義を説明できる。
2. 保育現場等、地域でボランティア活動を実践し、効果を説明できる。
3. 計画的なボランティア実践を通じ、福祉サービス利用者とのコミュニケーションの向上を図る。
4. ボランティアコーディネーターの役割を説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
ボランティアのすすめ—基礎から実践まで (ミネルヴァ書房)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	保育ソーシャルワーク論	担当教員	大庭 荒
科目コード	330009	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

【科目のねらい】

保育者はこどもの成長・発達への支援と共に、保護者の子育て支援を担う専門職がある。個別化や自己決定などのソーシャルワークの原則を学び、保護者相談支援の基礎を理解する。

1. 保護者支援とは何か  
保育者に求められる保護者のエンパワメント
2. 保護者との適切な関わり方  
保護者との信頼関係
3. 保護者の心に寄り添うには  
保護者の想いに積極的共感
4. 保育者のソーシャルワーク実践  
ソーシャルワークの客観性・技法、バイステック 7 原則
5. コミュニケーションスキル  
言語的・非言語的コミュニケーション、言葉遣い、気持ちの言語化、表情、質問法など
6. 特別な支援が必要なこどもの保護者への支援  
保護者目線での相談・支援
7. 保育所保育指針による子育て支援  
保育士責務の法的根拠と倫理綱領

授業修了時の達成目標

- こどもの最善の利益を念頭に保護者へ保育の意図等の説明ができる。
- ソーシャルワークの原則を説明できる。
- 保育者と保護者の相互理解を深めるための信頼関係を構築する技法を説明できる。
- 特別な支援を要するこどもの保護者への支援を説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育士・幼稚園教諭のための保護者支援 保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援【新版】 (風鳴舎)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	発達障害児論	担当教員	仲間 優子
科目コード	310010	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>【学習の目的・ねらい】</p> <p>幼児期から児童期にかけての発達とその障害について理解を深める。</p> <p>乳幼児期から青年期の各時期における障害の特性や支援の在り方について理解し、支援方法の基礎的な知識について学習する。</p> <p>1 乳幼児期の発達課題と障害特性</p> <p>2 障害児保育の課題</p> <p>3 障害の特徴と保育の実際</p> <p>III 知的障害の特徴と保育での支援</p> <p>V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援</p> <p>4 障害児保育の体制づくり</p> <p>VIII インクルーシブ保育とは</p> <p>IX 保育所・幼稚園での支援体制</p> <p>5 TEACCH(ティーチ)プログラム</p>			
授業修了時の達成目標			
<p>幼児期から青年期にかけての発達の特徴について理解を深める</p> <p>発達障害や軽度知的障害の特性を知り、その特性を踏まえた支援体制について理解する。</p>			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる障害児保育 第2版 ミネルヴァ書房  保育所保育指針	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	保育の手話	担当教員	三尾 智美・仲間 優子
科目コード	330011	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (テキストによる通信教育)

1 日目

- ①聴覚障害の基本知識 (ろう者の生活、言葉の発達と聞こえ)
- ②手話表現 (指文字とあいさつ、自己紹介、手話を使った表現ー単語・動詞)
- ③手話の読み取り (手話表現を読み取り言葉にする)
- ④手話ソングを楽しむ (保育の現場で子どもたちと楽しめる手話ソングを学ぶ)
- ⑤まとめ (基礎知識、技術の確認)

2 日目

歌や遊びを通して豊かなコミュニケーションを養う。

- ①手話ソング
- ②手話ゲーム
- ③教材づくり

手話で自己紹介と簡単な挨拶ができ、楽しく手話ソングができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
NHK テレビ 「みんなの手話」 2019 年 4 月～6 月/10 月～12 月	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	楽しいリトミック				担当教員	中村 美和	
科目コード	330012				授業形態	スクーリング	
単位数	1 単位	必修・選択	必修	コマ数	20 コマ	時間	30 時間

### 授業概要 (スクーリングによる通信教育)

#### [授業の目的・ねらい]

リトミックは一人ひとりの感性を磨き、心身の調和的な発達を促す。音楽によって自己表現を果たすための空間として、「体験した」「感じた」ことを重要として、表現をしたいという気持ちを育む。

#### [授業全体の内容の概要]

教材：※科目担当講師が使用する

- 『1～5歳のかんたんリトミック』(ナツメ社)
- 『手遊び指あそび歌あそびブック①』(ひかりのくに株式会社)
- 『手遊び指あそび歌あそびブック②』(ひかりのくに株式会社)
- 『ダンス曲』(各自選択 OR 課題曲)

(前半) 1 日目		(後半) 3 日目	
9:00～10:00	リトミック講座①リトミックの考え方	9:00～10:30	リトミック講座&実技⑧1.2歳児のリトミック応用
10:10～12:10	リトミック講座&実技(リトミック) ②リトミックの基本 1. ビート 2. ダイナミクスとテンポ 3. 拍子 4. リズム・パターン 5. フレーズ	10:40～12:10	リトミック講座&実技⑨3.4歳児のリトミック応用
13:10～14:40	6. 形式 7. ニュアンス 8. ソルフェージュ	13:10～14:40	リトミック講座&実技⑩5歳児のリトミック応用 グループ分け
14:50～16:00	リトミック講座③1歳児のリトミック基本	14:50～16:00	課題①幼児曲の選曲及び指導案作成、 実技演習の練習
16:10～18:00	リトミック講座①②③確認テスト&実技試験(リトミック)	16:10～18:00	課題②ダンス曲選曲・振り付けオリジナル (必ず一人見せ場をつくること) 課題①指導案提出と幼児曲実技発表 (認定試験) 課題②の衣装の材料の報告 課題②ダン選曲決定報告、振り付け
(前半) 2 日目		(後半) 4 日目	
9:00～10:30	リトミック講座&実技④2歳児のリトミック基本	9:00～10:30	課題②ダンス曲 振り付けオリジナル練習
10:40～12:10	リトミック講座&実技⑤3歳児のリトミック基本	10:40～12:10	課題②中間報告
13:10～14:40	リトミック講座&実技⑥4歳児のリトミック基本	13:10～14:40	課題②衣装作り ダンス練習
14:50～16:00	リトミック講座&実技⑦5歳児のリトミック基本	14:50～16:00	課題②舞台リハーサル・修正
16:00～18:00	リトミック講座④～⑦の確認と実技試験(リトミック)	16:10～17:00	課題②ダンス最終練習
		17:00～17:40	課題②舞台発表(認定試験)

### 授業修了時の達成目標

各グループにわかれて、リトミック指導案作成、実技を通して保育の現場で即戦力になる保育士をめざし、自ら自己表現できる、表現を楽しめる、そして「幼児の表現したい」という気持ちを育める保育士として育成する。

評価基準	評価率	評価基準	評価率	評価基準	評価率
受講態度	30%	課題	20%	単位認定試験	50%

科目名	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	担当教員	金城 桂子・比嘉大輔
科目コード	330013	授業形態	実習
単位数	2 単位	必修・選択	必修
実習日数	11 日間		
授業概要 (実習)			
<p>〔保育実習Ⅱ〕</p> <p>【実習の段階】</p> <p>1.観察実習(実習初日)</p> <p>2.参加実習(実習 2～4 日目)</p> <p>3.部分実習・責任実習(実習 5 日目～10 日目～)</p> <p>【実習の内容】</p> <p>1.保育所(園)のデイリープログラムを実践し、保育の技術を習得する。</p> <p>2.乳幼児の発達段階を理解するとともに、個人差及び発達の遅れた乳幼児への個別的配慮について学ぶ。</p> <p>3.部分実習や、責任実習の指導計画を立案し、積極的に実践する。</p> <p>4.保護者との連携、子育て支援について具体的な実践方法を学ぶ。</p> <p>5.地域社会とのかかわりや、連携の大切さを理解し、その方法について学ぶ。</p> <p>6.保育者に求められる資質、能力、技術を理解し、自己の課題を明確にする。</p> <p>7.保育者としての職業倫理を深める。</p> <p>8.こどもの最善の利益について考え、その配慮について学ぶ。</p>			
授業終了時の達成目標			
<p>〔保育実習Ⅱ〕</p> <p>①保育所(園)の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>②子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。</p> <p>③今まで学んだ教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。</p> <p>④保育の計画、実践、観察、記録について実践し、理解ができる。</p> <p>⑤保育者の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつける。</p> <p>⑥保育者としての自己の課題を明確化する。</p>			
教科書・教材			その他

科目名	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	担当教員	金城 桂子・比嘉大輔
科目コード	330014	授業形態	スクーリング
単位数	2 単位	必修・選択	必修
コマ数	20 コマ	時間数	30 時間

#### 授業概要 (スクーリング)

##### [保育実習指導Ⅱ 前半]

##### 1. 保育実習に向けての準備や心得構え

- ①実習時の心得の確認。
- ②保育者としての態度、資質について。
- ③職員、園児、保護者、家族に対する態度やマナー。
- ④オリエンテーション、ボランティア体験の目的、内容。

##### 2. 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの違い

- ①保育所(園)の機能の理解。
- ②子育て支援について。
- ③地域連携について。

##### 3. 実習日誌作成

- ①日誌記入の理解。応用。

##### 4. 指導案作成

- ①作成の方法。理解。応用。

##### 5. 実習までの学習課題の明確化・自己学習計画

##### 6. 模擬保育

- ①絵本、紙芝居の選び方、読み方指導。
- ② デイリープログラムの理解。(ロールプレイ)
- ③児童文化財作り、演習の方法。

##### [保育実習指導Ⅱ 後半]

##### 1. 振り返りと評価

- ①これまでに学んだ理論や技術を、実践に活かすことが出来たか。  
事前学習から実習を終えての振り返り。  
(ア)心構えと態度、マナー (イ)遊びの指導(年齢と発達段階、障がいの特徴などを踏まえて)  
(ウ)園児、保護者、職員、家族、職員とのかかわり。(エ)指導案、実践内容 (オ)実習日誌の記録
- ②実習先の評価と自己評価の違いを検討し、客観的に自分自身を分析する。

## 2.課題設定と資質強化

①自己の課題を設定し、次につなげ、資質強化を図る。

保育者とは何か。保育者としての役割とは何か。自分に何が出来るのか。どのような保育者になりたいかをまとめる。

## 3.発表 まとめ

それぞれの振り返りを発表。

異なる実習先の共通理解。シェア。

## 4.お礼状作成について

「保育実習Ⅲ」は後日郵送しますので、届きましたらしっかり張り付けて下さい。



## 授業修了時の達成目標

### 〔保育実習指導Ⅱ 事前〕

保育実習Ⅰを通して得た知識、技術を統合し、さらにレベルアップした実習を行うことが出来るようにする。  
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、高度な保育実践力を培う。  
実習日誌や指導案作成方法の理解をさらに深めると共に保育スキルの演習を行う。

### 〔保育実習指導Ⅱ 事後〕

自己の実習過程を振り返り、学習の成果を確かなものにし、保育者としての自覚を持つ。  
評価から客観的に自分自身を分析した上で、自己の課題を設定し、次の学習へとつなげる

「保育実習Ⅲ」は後日郵送しますので、届きましたらしっかり張り付けて下さい。

教科書・教材

その他